

平成 28 年 8 月 25 日

第 2 回遠野市総合教育会議会議録

遠 野 市

平成28年8月25日 第2回遠野市総合教育会議会議録

- 1 開催場所 遠野市役所とびあ庁舎大会議室
- 2 開催日時 平成28年8月25日(木) 午前10時30分
- 3 出席状況

○出席者

市	長	本	田	敏	秋
教	長	中	浜	艶	子
委	員	角	田	直	樹
委	員	千	田	由	美子
委	員	菊	池	崇	
委	員	菊	池	和	子

○説明等のため出席した職員

教育部長兼中高連携サポート室長	澤	村	一	行	
子育て総合支援センター所長兼総合食育センター所長	多	田	博	子	
市民センター所長	鈴	木	惣	喜	
教務課長	畑	山	透		
学校教育課長	新	井	野	邦	夫
経営企画部次長兼政策推進総括課長	鈴	木	英	呂	
子育て総合支援課長	佐	々	木	一	富
総合食育推進課長	菊	池	幸	司	
文化課長	佐	々	木	修	
生涯学習スポーツ課長	立	花	信	一	

開会・開議 午前10時31分

1 開会

○教育部長

おはようございます。ただいまから、平成28年度第2回遠野市総合教育会議を開催いたします。本日の会議の進行を務めます、教育部長の澤村です。よろしくお願いいたします。

最初に資料の確認をさせていただきます。本日の次第が1枚、放課後こども総合プランについて1枚ものの資料と冊子、ファミリーサポート事業の進捗について1枚、学力向上の取組について、14ページもの1冊です。配付漏れはありませんか。

本日の会議は、遠野市長、教育長、教育委員は角田直樹委員、千田由美子委員、

菊池崇委員、菊池和子委員、全員に出席をいただいております。

それでは、最初に遠野市長からごあいさつをいただきます。

○市長

おはようございます。子ども達も夏休みを終え、元気に登校しております。先日、お昼時間に、ランドセルを背負った黄色い帽子を被った7、8人の子どもたちから、大きな声で挨拶をもらい、何とも言えない嬉しさがこみ上げてきました。本当に元気なあいさつでした。この子どもたちが遠野に住んでいて良かったと、そういったまちを作らなければと思ったところです。

今日は第2回の総合教育会議であります。夕べ、家に帰りましてから、今日の総合教育会議の資料に目を通しました。非常に良くまとまっていて見やすく、何をこの会議で議論しなければならないかという論点も整理されていたと思います。その中で、色々な課題を議論していくわけではありますが、整理された資料があれば、私もあっちだこっちだと言わないで、メモでもらったあいさつを読むのも礼儀かなと、それを踏まえてあいさつしたいと思います。

本市では、遠野の宝であり希望である子どもたちが健やかに生まれ育つ環境の整備を図るため、遠野わらすっこプランを策定し、「子育てするなら遠野」というスローガンのもと、地域のマンパワーを活用し、様々な施策を展開しております。

本日の報告事項は2件です。一つ目は、放課後子ども総合プランについてであります。国では、平成19年度から文部科学省と厚生労働省が連携し、放課後等における子どもの安心安全な居場所の確保と健全育成、そして女性が安心して活躍する社会の実現のため、総合的な放課後対策、子どもの居場所づくりを推進する施策を進めています。放課後子ども総合プランは、国の方針を受け、学校や放課後児童クラブ、地域関係者と連携し遠野の地域力を生かし総合的に、放課後対策を進めるためのプランとして策定したものです。

二つ目は、本年10月1日から新たな事業としてスタートする「遠野わらすっこファミリー・サポート・センター」の事業についてです。事業の詳細については、担当から説明しますが、日常の子育てを頑張っている方々を、地域、事業者、法人、市が一体となって支援していくという事業です。

今回の協議事項では、当市の将来を見据えるとともに、子どもたちのテーマとして学力向上に向けた取組について取り上げたいと思います。

学力向上は、学校と家庭と地域が一丸となって取り組まなければならない遠野市の最重要課題の一つであります。教育委員会が設置する教育研究所では、平成25年度から重点的に遠野の将来を見据えた学力向上の推進に取り組み、今年で4年目を迎えております。学力向上の取組については、教育委員会から遠野テレビ、広報を通して、広く市民にお知らせしているところです。改めてこの取組の内容と現状に

ついて、総合教育会議で成果と課題についてもお話ししてまいりたいと考えております。

皆様ご存知のとおり、この会議は市長部局と教育委員会、相互の協議、調整を趣旨としているところであります。この会議における率直な意見交換により、新たな発見、発想が生まれることを期待し、あいさつとさせていただきます。と、あいさつ原稿を読み上げましたが、まさにこの総合教育会議、2回目になります。皆で知恵を出しながら、にこやかにあいさつをかけてくれる子どもたちを我々大人が支えなければならない。そして懸命に子育てしている保護者の皆さんのサポートを地域みんなで見守り育てていくことによって、遠野の活力を見出すことができるのではと思います。

少子化、高齢化を仕方ないと俯いていても何にもなりません。今、7月から市長と語ろう会を各自治会単位に行っています。子どもの遊び場や、ちょっとした遊園地が欲しいなど、子育てに関わる様々な地域課題がそれぞれの自治会単位で率直な声として聞こえてきています。各自治会、7箇所回っています。今後も回りますが、コミュニティ単位、自治会単位で膝を突き合わせて話を聞くことによって、いかに地域住民が子育て、あるいはコミュニティ、そして将来を担う子ども達に夢をといたことを願っているかを私も痛切に感じているところであります。わらすっこファミリー・サポート・センターの活動の様子なども、我々でしっかり確認し、さらに充実させるにはどうすべきかといったことを皆さんで議論していきたいと思っております。学力向上の問題も長年の課題であります。これも一気に結果を出すことは難しいと思っております。2年、3年と地道な、愚直な取組が求められているのではないかと考えていることを付け加えて、あいさつとさせていただきます。

○教育部長

ありがとうございました。

それでは、遠野市総合教育会議設置要綱第4条第1項に基づき市長が議長となりますので、以後の会議の進行をお願いしたいと思います。

○市長

それでは進めてまいります。今日の報告事項は2件であります。まず、資料に基づきまして、放課後子ども総合クラブについて、報告をいただきます。

○生涯学習スポーツ課長

生涯学習スポーツ課の立花です。私の方から遠野市放課後子ども総合プランについて簡単に説明したいと思います。

資料5ページをごらんいただきたいと思います。この総合プランの策定に当たっ

での背景でございます。一つが少子高齢化の進行、あるいは核家族化の増加、家庭や地域の共有力の低下など、子ども達を取り巻く環境、社会環境が大きく変わってきています。それと併せて日本が人口減少時代に入り、女性の力が発揮されることが期待されています。女性が個性と能力を十分発揮できるようにするため、子ども達の安心安全な場所の確保が求められています。

このような社会情勢を受けまして、国では、放課後こどもプランを策定したもので、本市では、平成16年度から遠野子ども教室を開催し、その後、平成19年度からは放課後の安心安全な居場所づくりとして放課後子ども教室を開催しているところです。遠野の地域力を生かした総合的な放課後対策を進めるため、今回のプランの策定となりました。

プランの位置づけですが、本プランはまちづくりの基本方針であります、遠野市総合計画と併せて、遠野市わらすっこプランを上位計画として、放課後の総合的な施策を実施するところであります。プランの位置づけのイメージ図を掲載してございますので、後でござらんください。プランの期間につきましては、平成28年度から平成31年度までの4年間としているところであります。

7ページにつきましては、遠野市の現状と課題を掲載しております。平成17年に旧遠野市と旧宮守村が合併した際に、子どもたちの数、児童数が1,643人いました。今年1,251人ということで、その当時から比べると、392人が減っている状況です。平成36年には1,000人を割るといふ推計も出ておりまして、いずれ子どもたちが減っていくという状況であります。

8ページをござらんください。遠野市の放課後事業の実施状況ということで、放課後の児童の健全育成事業には、放課後児童クラブと放課後こども教室の二つがあります。放課後児童クラブは、放課後や長期休業中に適切な遊びや生活の場を提供し、子どもたちの健全育成を図る事業でございます。遠野市では、6つの児童館、5つの児童クラブが設置されております。11地区全てに設置されており、子どもたちの安心安全な放課後の居場所づくりとして活用されております。放課後こども教室につきましては、家庭学習の習慣を目的に設置されておりますが、児童が自発的に学習に取り組む機会の提供となっております。

放課後事業の成果と課題でございます。10ページをござらんください。児童館、児童クラブは、遊びを取り入れた様々な活動の場、放課後こども教室は家庭学習に取り組む学びの場として定着しております。今後も子ども達の活動が広がるように両者が連携して取り組むことが重要となっております。放課後児童クラブと放課後子ども教室は、放課後の居場所づくりとして定着しているため、なくてはならない場所となっております。今後も子ども達の活動の場が広がるよう、両者が連携して取り組む必要があります。

11ページは、放課後児童クラブ、放課後子ども教室のそれぞれのイメージ図が書

いてありますが、児童クラブにつきましては、体験活動や遊びなどの生活の場の提供です。放課後子ども教室につきましては、学習活動の場と放課後の居場所の提供です。両者とも放課後の子どもの安心安全を確保するという点では共通しているという状況でございます。

12ページをごらんください。プランの基本方針でございます。子ども達が安心安全な放課後を過ごすことができる居場所を、関係機関、団体が連携して作り、遊びやすい活動の場、学習の場を充実させることを目的としています。基本理念としては、子どもたちの安心安全な放課後の居場所づくりに社会全体で取り組もうという理念ですし、基本目標としては子どもたちが健やかに育っていく環境づくりです。

二つ目は、子どもたちの安心安全な放課後の居場所づくりを通じて、地域社会と繋がりを深める、地域社会で子どもたちを育てていくということが目標です。プランの具体的な施策として、現在12人で推進委員会を設置し、協議を進めておりますが、子どもたちの安心安全な放課後活動を保護するため、関係機関、団体の協力を得ながら、子どもたちの安心安全な放課後活動の充実を図るとしております。家庭への啓発、地域との連携、行政機関との連携が必要と考えておりますので、関係各位のご理解とご協力をお願い申し上げ、説明とさせていただきます。

○市長

ただいま説明がありましたとおり、放課後子ども総合プランのイメージや基本理念、どのような施策を展開するのか、児童クラブ、子ども教室、関係機関との連携といった中で、子ども総合プラン、それも放課後という安心安全な居場所、環境をというプランでございます。

質問や確認したいことがあれば伺います。なければ、次のもう一つの報告事項がありますので、それを進めてから、質問を受けたいと思います。次のファミリーサポート事業の進捗について子育て総合支援課長から報告をお願いします。

○子育て総合支援課長

子育て総合支援課長の佐々木です。遠野市わらすっこファミリー・サポート・センター事業、通所ファミサポは、今年度からの取組になります。子育て世帯への地域での子育て支援の一環として、子育て世代の中で託児等のお手伝いをお願いしたい人をおねがい会員と位置づけ、子育てのお願いを受ける方をまかせて会員として、託児所のベビーシッターのような方々をまかせて会員と位置づけています。おねがい会員からまかせて会員へ繋いでいく、ネットワークの会員制の子育て支援でございます。今まで市内の各団体の総会等会合に出向きまして、このファミサポ事業の説明を行いました。さらに、遠野テレビ、広報遠野でも周知を図っております。

まかせて会員につきましては、7月末現在で41名の登録がございます。その登録状況、拡張会員の内訳を出してございます。この登録会員の皆さんは、24時間の4日間の日程の中で専門講習を受けていただくということが条件で、それを二回に分けて行いまして、一回目は8月2日から8月8日まで4日間実施しました。41名のうち、半数の会員の方が受講しております。

講師、先生には、保育、託児に係る留意点については県立遠野病院の木元先生に、心の発達の部分では臨床心理士の先生に、それから地元の保育については、保育協会から園長先生や関係スタッフをお願いして講習を実施しました。二回目の講習は、本日25日から29日まで、残りの20数名の登録者の専門講習を実施しています。

最終的に9月に準備段階を経まして、10月1日から本格的にスタートに向けて動き出したいと思います。裏面をごらんください。

現在、託児等の手伝いをお願いしたい、おねがい会員の登録も呼びかけておりまして、8月15日現在で10名が登録しております。今後、周知等を図りまして、50名ほどに伸ばしていきたいと考えております。下の方には、今までの説明会や活動経過を載せてございます。

今後については、おねがい会員を50名含めた形で、まかせて会員と親睦を図り、託児におけるコーディネートをし、最終的に個々の託児だけにとどまらず、地域での子育てとなれば、寄り添う託児等保育の支援だけではなく、孤立する保護者世帯等へのフォローなど、先駆けの事例として、さらに裾野を広げていきたいと思えます。地域の中での様々な子育て関係するイベントを活動する団体もありますから、その方々と裾野を広げていく中で、託児を地域の中で支えていく形に結実したいと、その先駆けとしてファミサポ事業を取り組んでいるところでございます。いずれ、10月1日からの本格実施に向けスタートするために、準備を進めているところです。

○市長

ただいま、遠野わらすっこファミリー・サポート・センター事業の進捗状況について説明がありました。

今現在50人の会員が登録している状況で、ファミサポ事業のお知らせ、説明会などかなりの回数で行っている。こういう働きかけは、繰り返し繰り返しがとても大事だと思うのです。我々は分かっている、であれば皆知っているのだと思っている。そこには、大きな落とし穴があります。フェイストゥーフェイスの中で繰り返していく積み上げが大事であり、子ども達を大事にし、遠野の活力を見出していくという一つのものが皆さんの手によって積み上げられていくという、この総合教育会議に集まり、議論をしても、それはみんな解決していかなければならないという

ことです。説明を聞いていて、すごく大事なアプローチをしたなと思いました。

さて、一つ目は子ども総合プラン、二つ目はファミリーサポートセンター事業、これは進捗状況ということで10月1日からスタートする。今後の課題として、まかせて会員を周知し登録をしていただく。これは小学校、保育園経由でお知らせすることを検討している。おねがい会員、まかせて会員の事前打合せの対応を万全に行う。お互いの誤解を未然に防ぎ、気持ちよく子育てのお手伝いをできるようにする。これも重要なスタンスですね。10月1日のスタートに向け、着々と準備するとともに、各状況を記録するという3つのポイントが上げられていることも非常に重要な作業ではないかと思います。

この報告事項につきまして、委員のみなさんから意見なり感想でも結構でございますので、いただければと思います。

○千田委員

子育てするにはありがたい事業だと思います。放課後子ども総合プランについては、町中であれば放課後児童クラブと放課後子ども教室のすみ分けができると思いますが、小友のような少人数しかない場合、2つのすみ分けがしづらいのではないかと、であれば児童クラブだけでいいのではないかと思います。地域に合わせた細かいサービスというか、教育委員会の大きな目的である学力向上に繋がる、レベルを上げるような取組があってもいいのでは、というのが正直な感想でした。ファミサポ事業については、確かに今の若いお母さん達は産んで、すぐに働くような状態なので、安心して預けられる地域の方がそばにいてくれるのは非常にありがたいことですし、また、こういう事業が生まれたということは地域のコミュニティが崩れていることが背景にあると思いますので、他の課と連携して、もっと安心して任せられるような地域を作っていただけたらいいと思いました。

○市長

ありがとうございました。角田委員。

○角田委員

いくつか確認したいことがありまして、ファミサポ事業ですが、どれくらいの年齢を対象としているのか、例えば、乳幼児は生後数箇月から預けることが可能とか、あるいは上の方だと小学校を通じて案内するとありましたが、高学年になると託児というのはどうなのかな。どのくらいの年齢を想定されているのかということと、預ける時間帯、あとは預ける時間ですね、買い物や食事の1時間とか2時間とかの想定なのか、もしかしたら勘違いをして1日預けてしまう保護者の方も現れるのではないのでしょうか。想定されている利用状況があれば、おそらく今日のような

説明をはじめて聞いた方はイメージしづらいのではないかと思いますのですが、想定されている利用時間がありましたら教えてください。

○子育て総合支援センター所長

利用する児童は、0歳児から小学生までを想定しております。小学生においては、例えば、スポ少の送迎等も想定されます。花巻、北上ではすでに実施されているサポート事業でして、そういうニーズも結構あるそうです。1時間500円程度の利用料金を設定していて、有償ボランティアですが、一番多いのが、たぶん仕事が長引いて保育園に迎えに行けないために家で預かってほしいという、1時間2時間程度の利用が想定されます。

○角田委員

分かりました。保育園のあと、迎えに行けないようなときや会社から帰れないときなど、そこを非常に苦勞されている方もいますので、非常にいいですね。予定した時間にお母さんが来ないとか、心配もなくなりますし、良いですね。

○菊池崇委員

放課後子ども総合プラン、ファミサポ事業もですが、親の共稼ぎによって子どもが一人であるという時間をなくすということも大きいと思います。ニーズも上がってきているということで、この二つの事業は、どんどん力を入れていかなければいけないことだと思います。千田委員も言われた、放課後子ども総合プランの放課後子ども教室と放課後児童クラブの分け隔てがないことに、保護者としてどうなのかなと思っていて、例えば、勉強している子ども達の後ろで別の子ども達が遊んでいる、という声も聞こえてきますので、その辺の分け隔てしたほうが学力向上としてはいいのではないのでしょうか。勉強をするときは学校の教室を使わせてもらうとか、ちょっとした工夫をするだけで、今日は勉強をする日、今日は遊んでいい日があればいいのかなと思います。

○菊池和子委員

放課後子ども総合プランという、子どもを一人にしないというシステムが導入、でき上がってきているなど感じる反面、大人になるまでの間に踏まなければならない、一人で留守番できるとか一人でお使いに行けるとか、一人で何かをできるという、どこに焦点を当てるか。私たちが先回りし過ぎて、子どもの伸びる力を奪ってしまわないように気を付けていかなければというのが児童館の子どもたちを見て思うことです。というのは、今、白岩児童館などでは、年齢集団で子どもたちを動かそうという試みをしています。昔でいえばガキ大将のような、上の子どもたちが判断し

て、下の子達に、ここは危ないからこれはやめなさい等を言えるような、そういうシステムを学ばせたいと思っています。そういう時に上の子たちが色々経験し、様々な事に気付くときに、大人が先回りしてこれもダメ、あれもダメではなく、きちんと整理してあげる必要性を感じます。ただ、遠野市の取組はほかに例がなく、遠野に転校してきた保護者さんが遠野はすごいですねと言っていることを耳にします。PRするときに、行政ではこういったことをしますので、家庭ではここを頑張ってください、というようなすみ分けができたらいいいのかなと思います。

○教育長

ファミリーサポート事業ですが、待ち望んでいた方がたくさんいたのではないかなと思います。児童館にいて心配だなと思うのが、児童館は18時までで、18時を過ぎると子ども達の居場所がなくなります。結局、母親の仕事場で3時間なり過ごす子どもも実際にいましたので、そういう子どもを安心してお世話してくれる場所、それがあるのはいいなと感じます。また、病気で熱が出たとき等、母親を呼んでも仕事で迎えに行ける状況ではない場合の対応などを考えると、ぜひサポート事業の推進を期待したいし、事業に対する内容等についての周知を図って、それぞれのまかせて会員、おねがい会員も存分に参加できるような体制をとっていければいいなと思います。

それから、放課後子ども教室ですが、学力向上に向けて大変意味があることだと感じています。放課後子ども教室に行けば先生がいてくださり、分からないことはすぐに聞いて教えてもらえる。家に帰っても、保護者が忙しく音読なども聞いてもらえない子どもも、放課後子ども教室で先生に音読を聞いてもらい褒めてもらうなど、学力向上についても大きな役割を果たしているし、家庭学習の習慣化にも大きな役割を果たしていると思います。問題は、放課後子ども教室が開催される場所が、学校、地区センター、児童館と様々で、そのあたりも目的と照らし合せて、子どもたちがどのようにすれば使いやすいのか、どうすれば目的を達成できるのかを吟味する必要があると思います。学力向上にとって意味のある事業だと思っています。

○市長

教育長をはじめ、委員の皆様から建設的な意見、感想が述べられました。まさにそのとおりと、私も感じました。情報社会の中で、例えば広報に載せた、遠野テレビで放映した、インターネットに掲載したという働きかけをしたことは、大事なことでありますが、決して否定するわけではありませんが、説明会での繰り返しが本当の理解を得られるのだろうと、皆で一緒にやろうという仕組みがその中で活かされていることを我々忘れてはいけないなと改めて思ったところを付け加えさせてい

ただき、報告事項1と2について終わらせていただきます。

今日の協議事項であります、学力向上の取組に進みたいと思います。

○学校教育課長

学校教育課長の新井野です。それでは、遠野市の学力向上の取組について説明をいたします。資料に沿ってご説明いたします。

遠野市教育研究所では、平成25年度から、中学校統合を機に、中学校区ごとの学力向上策に取り組んでいます。目指す姿を知・徳・体のバランスの取れた人間形成として、小中学校の連携をもとに、義務教育の9年間で踏まえた指導の充実を目指した取組です。主な取組は、中学校区ごとの授業実践です。3ページをごらんください。中学校区ごとの学力向上の取組を通して、中学校では小学校での成果を活かしてその良さを伸ばすことができます。また、小学校では中学校での学習内容やつまづきを想定し系統的な指導ができるメリットがあります。4年目の取組となり、小中学校の先生が、同じ学校の先生のように垣根なく何でも話し合えるようになってきています。規律や家庭学習の取組等でも連携でき、何よりも、同じ目標に向かって子どもを育てようとする連帯感が感じられるようになってきました。特に今年度は、成果が実感できるような日常の実践を目指して中学校区ごとに取り組んでいます。

それでは4ページをごらんください。遠野市の教育研究所の取組について、遠野テレビで放映されました映像をごらんください。

(…遠野テレビ映像…)

それでは資料に戻ります。5ページをごらんください。確かな学力について文部科学省の定義は8つの要素が示されています。その8つの要素を、知識、技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、表現力、判断力、主体的に学習に取り組む内容、基礎的基本的な知識の3つにまとめております。この3要素を子ども達に身に付けさせる授業づくりのために、岩手県では、平成27年12月に授業づくりの3つの視点を示しました。

6ページをごらんください。各中学校区の視点は、学力保障のための3つの要素を含んでおり、授業づくりの3つの視点とも密接に関連し、まさに正しい方向で取り組みが進んでいることが見て取れます。

7ページをごらんください。中学校ごとに小中連携して授業改善に取り組んでまいりましたが、平成28年4月に行われた全国学調の児童生徒の意識調査から、授業改善が進んでいるというデータがありました。左側は、授業の中で目標、めあて、狙いが示されていると思うかというグラフです。中学校3年生、小学校6年生も全国に比べ、当てはまるという回答が多くなっています。また右側の、授業の最後に振り返りの活動を行っているかも全国に比べ多くなっています。小学校も中学

校も、目標と振り返りを大事にした授業づくりが進んでいることがうかがえます。

資料8 ページの表をごらんください。この調査は、どちらも教師からの一方的な教え込みの授業ではなく、子ども達が主体的となって行う言語活動の充実が進んでいるかという調査です。この調査においても、小中学校とも、全国を上回りました。

しかし、この調査から課題と思われる点もありました。それは家庭学習時間です。9 ページですが、特にも中学校3年生については、2時間以上を市の指導としておりますが、全国に比べて半分程の割合となっております。テレビ、スマートフォンの使用時間が全国に比べて長い傾向となっているため、授業に向け、一人ひとりが、わかる・できるをより実感させ、さらにやってみたい、調べてみたいという知的好奇心を高めていくことが大切ではないかと考えています。

10ページをごらんください。遠野テレビの冒頭でも紹介がありましたが、平成27年度の全国学調の結果です。先ほどのデータからも、先生方の授業改善への意識が変化し、授業が変わりつつあるのが見て取れます。しかし、これがすぐに調査問題の点数に直結するかというと、そう簡単ではありません。教育の成果には時間差があります。しかし、小中連携が進み、授業改善が着実に進んでいます。夏休みに行われた八戸市との児童交流の中で、小学校6年生の生徒が、挨拶や感想を人前で話す場面がありました。事前に準備したものに、その場で感じたこと、考えたことを織り交ぜ、上手に話していました。遠野の小学生もその場に応じてここまで話せるのだと感激いたしました。学力向上の成果が、着実に子どもたちの中に育ってきているのだと実感いたしました。

続いて11ページをごらんください。学力向上は、学校、家庭、行政の3者が連携して取り組むことで効果が生まれます。学校は授業改善に取り組み、質を上げていくと共に学び方を教えていく必要があります。家庭は学校の方針を理解し、子どもの家庭学習に向き合う時間を持つことが大切です。行政は授業に集中できる環境を整え、授業改善や家庭学習の改善に向け、指導助言していく必要があります。

12ページをごらんください。協議の柱の1としていますが、教育委員会の学校の学力向上の取組をまとめたものになります。教育委員会としては、お示した4点について取り組んでまいります。学校には学力向上の取組として、ここに示した4点について取り組んでもらいたいと考えています。

13ページをごらんください。協議の柱の2つ目、家庭学習の取組については、先ほど、課題として上げたところでありますので、皆さんから意見を頂けたらと考えています。

14ページ、協議の柱の3つ目ですが、学力向上に向けてさらなる支援体制の整備を考えています。今年度、新たに中学校の学力向上対策として、特定教科支援員（数学）を各中学校に1名配置しております。授業での生徒の支援のほかに、2学

期からは必修による家庭学習の試験も行う予定となっております。手厚い配慮をしていただいていることに感謝いたします。

今後に向けて、①の特別支援教育支援員については、各校からの要望が増加傾向にあります。特に新年度が始まって現れるケースが多く、対応に学校が苦勞している状況です。今年度も、各校から57名の子どもに対する配置希望がありました。支援員の拡充が必要な状況が続いております。他市町との状況からみても、配置率は県内33の市町村から見ても17番目、14市の中で7番目となっております。

続いて、②のALT増員についてですが、平成32年度から小学校5、6年生の英語の教科化がスタートします。平成30年度には小学校3年生にも外国語活動が導入されます。現在の1名体制では、全部の学校、学級への対応は難しいと想定されます。現状として、各小学校1クラス、年間授業35時間の内、6～9時間の配置で、中学校は年間140時間のうち18～20時間の配置となっております。小学校教科化に伴って、授業実数は小学校全体で現在の3倍となる見込みです。

続きまして、③～⑤については必要な状況が続いておりますので、継続をお願いしたいと思います。今後の学力向上に向けた支援体制についてもご意見を頂ければと思います。以上3つの柱について協議いただければと思います。よろしく申し上げます。

○市長

それでは、学力向上の取組について、遠野テレビで放映して現場での実践活動の様子なども映像で確認していただきました。協議事項が3点、論点が絞られています。資料でいうと12、13、16ページの中に協議事項としての論点が提示されています。児童生徒の理解と意欲を高めるための授業改善、これが柱の一つ。二つ目が家庭学習の取組。三つ目が支援体制。論点の1から3について、みなさんがそれぞれ感じたこと、意見を伺いたいと思います。

○和子委員

協議の柱①のところで、先生方が学校公開や研究会で習った授業を頑張るのではなくて、この研究所の取組で、授業に対する士気、小中学校の先生方の繋がり、先生方が授業を意識して頑張っている姿は素晴らしいと思います。知的好奇心を揺さぶるという発言がありましたが、子ども達ができたら終わりではなく、さらに知的好奇心を持たせるような学び方を進めていってほしいなと思います。家庭では、子どもができるようになった事で、これからも頑張ろうという気持ちづくりも大事だと思います。

最後に、学校現場における、特別支援教育の支援員の存在は、大変ありがたいと思っています。特に、低学年が入学してから学校生活に適應するまで、今までと違

った、障害的なものも見えてきたりする場合がありますので、この特別支援員ですが、時間数が限られているので、支援が必要な生徒が学校にいる時間や振り返りや翌日の打合せ等が出来るような時間が取れるように、勤務時間に融通がきくようになればいいのではないかと思います。

○角田委員

和子委員がおっしゃったように、教育委員を務めるようになってから学校公開を少なからず見てきました。最初に拝見したときは、先生方の表情が硬いと申しますか、学校公開のために準備してきたなというような覚束ない感があったように思います。すばらしいと思いながらも、この形を日常からできるのかなと思っていましたが、ここ数年は、日常から授業の中で目標を設定し、振り返りをしているのだなというのが、生徒の反応を見ても分かりますし、先生方にも余裕が出てきているなど。先生方のレベル、授業づくりの改善が進んできていると感じました。

その取組が成果を出せば、本来であれば結果が出るはずですが、今一つ期待した結果が出ていないのが数学で、今、色々な取組がされている中で、支援に入り、ちょっと苦手な子や理解できていない子どもたちに対してサポートしていくことが全体の理解に繋がっていくのかなと。視点を変えて、私は文系が得意ではなく、どちらかといえば理系が好きで、なぜかという国語、社会は勉強を積み重ねないと点数が取れないが、数学、理科、物理等はわりと基礎的なことをマスターすれば自分で答えを導き出せるという喜びがあって、それが学習の意欲に繋がるのではないかと思います。

ぜひ、今の子どもたちにも、自分で考え、答えを導き出せること、ちょっとしたひらめきを感じてもらえれば、学習に対する意欲も一気に増していくのでは。できない子を伸ばしていくことも大事だが、得意な子も伸ばしてあげて、不得手な子を引っ張っていくような学習も大事だと感じます。また、子どもたちが目を輝かせて数学が面白くなるような、数学で有名な先生を常勤ではなく派遣してもらい、指導してもらおう。数学の学力の伸びはちょっとしたつまずきだと思うので、そういうところで意欲を発見させてあげられる指導も期待しています。

○市長

4人の委員から感想や意見をいただきましたが、取りまとめて課長からコメントをいただき、最後に学力向上の陣頭指揮をとっている教育長から委員の皆さんの意見、提言、感想を含めた学力向上問題に向けた所感を述べていただければと思います。

○崇委員

学力向上には、学校、家庭、行政の三者連携が非常に大切だということですが、家庭については保護者として、家庭学習の時間の確保が大事ということですが、家に帰ってきてからのテレビやゲームなどの時間が勉強時間を浸食している感があります。家庭のレベルを上げるといって語弊がありますが、家庭学習に対しての親の意識を高めていくことが大切だと思います。学校や先生が色々な研究会を行っても、市が補助や後押しをしても、原点である家庭のほうで、勉強に対しておざなりになるようでは駄目ですので、その声掛けなど自覚を持ってもらうことが大事だと思います。

家庭学習の面においても、遠野の子どもたちの勉強時間が全国から比べても少ないということで、都会に比べて塾が少ないなど、太刀打ちしていくのは難しいだろうと思います。そこに代わる勉強時間確保の方法としては、学校にやっていただくことが自然でしょうし、補助や先生の増員など、行政の力が必要になってくると思います。そういったことが直接、学力向上に結びつくと考えられるという意見がありましたので、3者で連携していけば学力向上に繋がっていくのではないかと思います。

○千田委員

崇委員がおっしゃったように、家庭力というのはすごく重要で、学校に任せれば良いという問題ではなく、環境を整えてくださいという問題でもなく、3つが連携することではじめて学力向上につながると思います。すごく、学校の先生は頑張っていると思います。でも、家庭がついていっているかという、そういう感じではないように思います。家庭へのアプローチだったり、ここ最近騒がれているPTAの崩壊だったり、子ども会活動が行えないなど親の方に問題が出てきているので、学力向上に向けて先生だけが頑張るのではなく、市も家庭も親もがんばるという、家庭に対してのアプローチも必要なのではないかと思います。

学校や市が環境を整えたとしても、基礎となる家庭力が疎かになると子どもが一人でご飯も食べられない、会話もないというような、結果的に学力に対する意識も薄れていく状況になっていくことを考えると、地域、家庭へのアプローチなども考えていく必要もあると思います。特別支援が必要とされる児童も最近増えていると思います。特別支援員も今まで以上にサポートが必要だと思います。

○市長

では、新井野課長に、委員からのご意見に対する総括をお願いします。

○学校教育課長

菊池委員、千田委員から出ました支援員の件ですが、今、学校の子どもたちは

色々がんばっております。一番大事なのは健全育成です。基本的な生活習慣、思いやり、皆と一緒に活動することができる、そういった部分のベースがないと学力は伸びていきません。その部分を作るといのはとても大事で、市としても、年に一回、そのための研修を行い、レベルアップを試みておりますが、レベルアップをしても、どうしても担任一人だけでは対応できないというケースが出てきています。そういった意味で支援員は必要です。

ただ、財源の問題もあるため、何十人もというのは無理ですので、例えば先ほど菊池委員からありましたように時間数を延ばすとか、来年度のことは前の年に検討しますが、年度が始まってから出てくるケースが出てきますので、その時に現予算では配置できない、対応できないというようなことにならないように予算措置をしていただければと思います。やはり学力向上には健全育成、これをなくして学力向上はあり得ないということで、大変貴重な意見を頂いたと思います。

続いて、授業改善についてお褒めの言葉を頂きました。つまり先生方の意識が変わってきたと。意識を変えるのはすごく難しいことで、一人二人は変わっても、学校単位として、市として先生の意識が変わることはなかなか難しいことですが、遠野市ではそれを可能にできています。明らかに学校単位、市単位で先生方の意識の変化が出てきている。学調の子ども達のアンケートからも見て取れます。そして先生方も授業改善に取り組んでいます。子ども達に見通しを持たせようと、課題を作り、それを解決するために一方的に教えこむのではなく、いろいろな活動をさせます。そして最後、今日できるようになったことは何かという振り返り、定着も考えた形ができつつありますが、でき上がれば、すぐに学調の点数が上がるかというところ簡単ではなく、知的好奇心、あるいは欠点だけではなく、いい部分をより伸ばそうという視点はとても大事です。

子どもたちに一番大事なことは、面白いと感じ、もっとやりたいという気持ちです。そういう気持ちが授業の中で生まれなければとらないと思います。これからの授業改善のポイントは、まさに質を高めていくことです。学力向上というと、理解できていない子どもたちを伸ばそうというようにとらわれがちですが、実は、ある程度理解できている子どもたちをさらに伸ばそうという授業改善も大事で、先生方にも話して取り組んでもらってはいますが、全体指導の中では難しい部分があります。そこを今後の課題として取り組んでいきたいと思っております。

一番の問題は家庭学習です。長年の問題なのかなと思いつきながら取り組んでいます。学校ではただやれではなく、何をやればいいのか、どのようにやればいいのかしっかり指導してくださいという部分も、今取り組み始めています。家庭に対しても学びフェストということで、何時間勉強しましょうとこの時間にやりましょうと、地域と一緒に取り組もうと頑張っていますが、なかなか進んでいないのが現状で、課題でもあります。そこについては、今後皆で一丸となり、考えながら、そし

て、学校が家庭に対し発信していかなければならないと感じております。

○市長

学校教育課長から問題に対するコメントを頂きました。この中で支援体制をどうするかということについて、問題点が浮き彫りになってきました。県内で何番目など、状況を私も含めた関係者と共有しながら、環境を作っていけば遠野市として見出しがいけるのではないかと思います。そこで陣頭指揮を執る教育長から課題と実現したいこと、直ちに手を付けなければいけないこと含め、述べていただきたいと思っております。

○教育長

学力向上は、長い間、遠野の教育の課題となっています。その視点の一つが小中連携で、小中連携を課題としながらも中々仕組みづくりができず、中学校再編を機に仕組みづくりをし、4年経ち、ようやく手応えを感じられる状況になってきました。しかもその取組はこれからの社会に対応するための力を育てることに繋がり、この遠野市で取り組んでいる学力向上の方向性に間違いはないのだと、さらにこの取組を推進していきたいと思っています。

そして、学力向上には、学校の責任、家庭の責任だけというのではなく、各々の役割をしっかりと持ちながら、学校ではきちんと分かる授業をする。そして、子どもが授業の中で分かった部分を家庭に持ち帰り、家庭学習をする。家庭学習が次の授業に活かされる。そのような循環が必要だと思います。その部分にもう少し、私たち教育委員会としても踏み入れていきたいと思っております。

1学期に、課長、部長、私ですべての学校を訪問しました。学力の取組と状況についても確認しました。特にも家庭学習の取組については、それぞれの学校で取組をしていることが分かりました。テレビの視聴時間が長いことから、ノーテレビデーに取り組んでいる学校。それから家庭学習の手引きを作っている学校もあります。また、家庭学習のノートをどのように作成すればよいか、先生自身がノートを作り、子どもたちに示すという取組をしている学校もあります。それぞれの学校が、家庭学習については問題意識を持って取り組み、学校だよりや学級通信等を通じて保護者に周知を図っている。その取組と結果についてはアンケート結果等を通じ、学校が把握し、さらに問題点を保護者に返していくというような、きめ細かな取組をしていますので、何とか家庭学習の取組についても教育委員会としても後押ししながら充実させていきたいと思っております。

それから、なんとしても考えていかなければならないのは個々に応じた支援です。学校には様々な子どもがいます。上位の子どもたちは、もちろん伸ばしていかなければいけません、これも学校の務めです。ただ、どうしても支援の必要な子ども

ももいます。困った子という意識ではなく、困っている子なのだという意識を持ち、様々な場面で支援をしていく必要があると思っております。現在は、学級の6.5%は支援の必要な子どもであるといわれていますので、困っている、支援を求めている子どもに対する手を十分に差し伸べてあげるような仕組みや事業も推進していく必要があると考えています。

○市長

教育長から、現在抱える課題に対する決意も含めた発言がありました。各委員からも、それぞれ健全な環境でこそ学力向上という結果が得られるという一つの体系を考えれば、報告事項にありましたわらすっこの居場所、ファミリーサポート事業という二つの制度が子育て総合支援本部の一つの取組として形が見えてきた。そこに学力向上という問題を突きつければ、課長が話をしたこと、教育長が話をしたこと、あるいは各委員の皆さんから発言いただいたことが結果として出てくることに繋がるという状態を私なりに感じる事ができました。

特にも、論点③の支援員制度が、先ほどと同じようなコメントになりますが、支援員制度の環境づくりに対し、市として、行政として、市長部局として、まだまだやれることがあるのではないかなと思います。確かに市の財政事情はかなり厳しいです。公共施設等整備に伴う基金も3億円を切りました。本庁舎整備という大きなプロジェクトをどう切り抜けるかという大きな瀬戸際で、これをなんとかして切り抜ければならない。切り抜ければ次の打って出る財源を見出すことができる。今が苦しい時であります。従って、どこを止めて、どこを伸ばすのか、どこを先延ばして、どこにやるのか。先般、遠野西中学校のプールの落成式がありました。立派なプールができ、子どもたちも喜んでおりました。少子高齢化という中であって、学校ごとにプールをとというのが非常に望ましいことではありますが、少子化という現実があります。例えば、プールの設置については発想を変えて、学校のカリキュラム、水泳といった体育の授業の質、仕組みを考えながらプールの利活用も学校ごとではなく、といった発想も必要ではないかと感じております。整備はするがもう少し新たな発想、新たな仕組み、新たな切り口を考えていこうということも踏まえて、今日の学力向上に係る、極めて有意義な議論であったと思っております。

最後になりますが、本日のこの資料は、非常に整理されているなど映像やパワーポイントを使って論点、課題を皆で共有しようと組み立てているなど思いました。わらすっこファミリーサポートについても、ワンペーパーにまとめられている。分厚い資料を出すことは簡単です。しかし、1枚の紙に、この大きな問題を、いかにみんなに理解してもらうように整理することは大変な作業です。それを後ろにいる事務局やスタッフが努力して、このようにまとめ上げたことについては、うれしく思っています。その感想を述べまして、終わらせていただきます。

○教育部長

それでは、以上をもちまして、平成28年度第2回総合教育会議を閉会いたします。長時間ご協議いただき、誠にありがとうございました。

閉会 午後0時21分

会議録作成者 遠野市長 本 田 敏 秋

署 名 教育長

署 名 教育委員

署 名 教育委員

署 名 教育委員

署 名 教育委員